

【演題名】

平戸度島スタディ (MGD 検診) : 食品摂取量とマイボーム腺機能不全との関係

【ショートタイトル演題名】

食品摂取と MGD

【英文タイトル】

Takushima Study: Relation between food and MGD

【演者】

○福岡詩麻¹⁾³⁾、有田玲子²⁾⁴⁾、溝口尚則²⁾⁵⁾、川島素子²⁾⁶⁾、高静花²⁾⁷⁾、白川理香²⁾³⁾、鈴木崇²⁾⁸⁾、児林聡美⁹⁾、佐々木敏⁹⁾、森重直行²⁾¹⁰⁾

1) 大宮はまだ眼科 2) LIME 研究会 3) 東京大 4) 伊藤医院 5) 溝口眼科 6) 慶應大 7) 大阪大 8) 東邦大大森 9) 東京大社会予防疫学 10) 大島眼科病院

Department of Social and Preventive Epidemiology

【目的】 平戸度島での疫学調査で、島民の食品摂取とマイボーム腺機能不全(以下 MGD)罹患との関係について検討を行った。

【方法】 対象は、20 歳から 92 歳まで(平均 62±16 歳)の島民 300 名(男性 109 名、女性 191 名)。簡易型自記式食事歴法質問票を用いて、エネルギー調整済みの鶏肉、豚肉・牛肉、脂がのった魚、脂の少ない魚、ハム、レバー、卵摂取量 (g/日)を推定、MGD ワーキンググループの診断基準に従い MGD を診断した。MGD 罹患に対する食品摂取量に関して Logistic 回帰分析を用いてオッズ比を推定した。

【結果】 平均食品摂取量(g/日)は、鶏肉 20.2±18.5、豚肉・牛肉 61.3±24.3、脂がのった魚 38.0±20.7、脂の少ない魚 21.7±15.4、ハム 12.3±7.1、レバー 1.2±1.4、卵 61.9±23.2 であった。MGD は全体 300 名中 106 名 (35%)、男性 109 名中 50 名 (46%)、女性 191 名中 56 名 (29%)であった。5 分位層別で摂取量最多群と最少群との調整後オッズ比 (95%CI) (年齢、性別、全身疾患の有無、飲酒の有無で調整)は、鶏肉 0.77 (0.32-1.84)、豚肉・牛肉 0.84 (0.35-2.02)、脂がのった魚 0.81 (0.36-1.85)、脂の少ない魚 1.30 (0.58-2.92)、ハム 0.29 (0.12-0.72)、レバー 3.36 (1.45-7.77)、卵 1.17 (0.52-2.62)であった。

【結論】 平戸度島において、普段の食事でハムを少なく、レバーを多く食べる成人に MGD 罹患率が高い可能性が示唆された。鶏肉、豚肉・牛肉、魚、卵の摂取と MGD 罹患とは有意な関係がなかった。